

日本語学会第 136 回大会 プログラム

会長 上野 善道
大会運営委員長 井上 優
大会実行委員長 長嶋 善郎

期 日： 2008年6月21日(土)・6月22日(日)
会 場： 学習院大学 〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1 (会場案内等は6~7ページ)
TEL：03-3986-0221 (代表)
FAX：03-5992-9317 (日本語日本文学科：共用につき宛名必須)

※ 車でのご参加はご遠慮ください。

—— 第 1 日 (6 月 21 日) ——

10:00-12:30	委員会 (委員の方はご出席ください。)	北 2 号館 10 階大会議室
10:00-12:00	「危機言語」ワークショップ 「関係節の類型論：フィールドから見えてくる言語の多様性 Part 3」 (企画：日本語学会「危機言語」小委員会，詳細は5ページ)	西 2 号館 4 階 402 教室
13:00-18:00	口頭発表 (詳細は2~3ページ)，ワークショップ (詳細は4ページ)	西 2 号館 4 階・5 階 西 1 号館 1 階・3 階
18:15-20:00	懇親会 (一般 5,000 円，学生 3,000 円)	創立百周年記念会館 3 階小講堂

※「危機言語」ワークショップはどなたでも参加できます。

—— 第 2 日 (6 月 22 日) ——

9:30-9:40	挨拶 上野 善道 (会長)，福井 憲彦 (学習院大学学長)	創立百周年記念会館 正 堂
9:40-10:40	公開講演(1) 「内省実験から見える文法」 上山 あゆみ (九州大学) (詳細は5ページ)	
10:45-11:45	公開講演(2) 「コーパスから見える文法」 大名 力 (名古屋大学) (詳細は5ページ)	
11:20-13:00	ポスター発表 (詳細は4ページ)	創立百周年記念会館 3 階小講堂
13:00-13:30	会員総会 (会員の方はご出席ください。)	創立百周年記念会館 正 堂
13:30-16:30	公開シンポジウム「形態論と隣接分野」(詳細は5ページ) 発題者：Geert BOOIJ (University of Leiden) Sergio SCALISE (University of Bologna) Angela RALLI (University of Patras) 影山 太郎 (関西学院大学) 司 会：影山 太郎 討論者：松本 曜，杉岡 洋子，岸本 秀樹，由本 陽子	

※公開講演，公開シンポジウムはどなたでも参加できます。

	A会場（西2号館4階402教室） 司会：小林 正人（前半）	B会場（西2号館4階401教室） 司会：小野 尚之（前半）
13:00-13:30	武内 康則 契丹小字で表記された漢字音から見た契丹語音韻体系の研究	小西 正人 現代日本語の動作事象（activity events）について
13:35-14:05	新里 卓 沖縄方言の衰退と復活—GIDS という枠組みから—	長谷部 郁子 日本語の形容詞派生動詞に関する統語的分析
14:15-14:45	河内 一博 「修飾」という概念は普遍的か？ —英語とペルシャ語とヘブライ語と Sidaama (Sidamo) 語の比較—	臼杵 岳 日本語の複合名詞に関する考察
14:50-15:20	野瀬 昌彦，ハンス-ヨルグ・ビビコ 「言語構造のワールドアトラス (WALS)」を使用した言語の多様性の視覚化 —格を持たない言語の文法特徴—	崔 玉花 日中英結果構文と非対格仮説 —中国語結果構文を中心に—
15:20-15:40	(休憩)	(休憩)
15:40-17:40	ワークショップ1 言語の構造的多様性のなかでの品詞分類 (詳細は4ページ)	ワークショップ2 日本語における前提導入表現とその同定手法 (詳細は4ページ)

	C会場（西2号館5階501教室） 司会：加藤 重広（前半），吉村 あき子（後半）	D会場（西2号館5階502教室） 司会：浦 啓之（前半），西村 義樹（後半）
13:00-13:30	玉岡 賀津雄，木山 幸子，宮岡 弥生 ヒトの言語産出とコーパスの頻度はどのくらい類似しているか	壺岐 勝 等位接続と使役文
13:35-14:05	鈴木 基伸 知覚マーカーとしての「てきた」について	木村 博子 間接疑問縮約構文の非移動分析
14:15-14:45	齊藤 学 日本語の助動詞ハズダとワケダの意味と用法	松井 晴子 主格目的語の認可領域
14:50-15:20	首藤 佐智子，原田 康也 文脈的制約の再構築による前提の特定 —助詞モと文脈依存的類義性—	小淵-Philip 麻菜 全称量化，否定極性，添加表現の「も」
15:20-15:40	(休憩)	(休憩)
15:40-16:10	高嶋 由布子 知覚動詞の他動性とアスペクト —意味拡張と身体性の観点から—	Fumikazu NIINUMA, Shigeki TAGUCHI Two types of nominative objects in Japanese
16:15-16:45	土屋 智行 定型表現の再分析とゆらぎ —慣用句の変形からみる多義—	Hideki MAKI, Kazushige TAKAHASHI, Toshiro UMEZAWA An ANOVA analysis of the nominative/genitive alternation in multiple nominative constructions in modern Japanese
16:55-17:25	高橋 光子 副詞「決して」の歴史的変遷 —認知言語学的分析—	Dónall P. Ó BAOILL, Hideki MAKI The <i>mar</i> "as" construction in modern Irish and its theoretical implications
17:30-18:00	金 英周，酒井 弘 述語によって要求される「名詞のコト」形の意味	

	E会場 (西2号館5階503教室) 司会：広瀬 友紀 (前半)，時本 真吾 (後半)	F会場 (西1号館3階301教室) 司会：星 泉 (前半)，菅原 真理子 (後半)
13:00-13:30	今村 怜，小泉 政利 文処理における情報構造と統語構造の交互作用について	江畑 冬生 サハ語 (ヤクート語) の二重格構文
13:35-14:05	龍 盛艶，小野 創，酒井 弘 日本語の文理解におけるアスペクト情報の処理	山田 祥子 ウイルト語民話資料における伝聞形式と証拠性
14:15-14:45	高橋 慶，横山 悟，神原 利宗，吉本 啓 Right Node Raising 構文処理にみられる統語依存情報減衰効果	藤原 敬介 チャック語における形容詞について
14:50-15:20	横山 悟，高橋 慶，神原 利宗，宮本 正夫，吉本 啓，川島 隆太 文理解を支える下位処理—単語認知と作業記憶—	高橋 清子 存在否定と経験否定—タイ語石碑文の否定表現—
15:20-15:40	(休憩)	(休憩)
15:40-16:10	野地 美幸 「だけ」が含まれる否定文の解釈—子供は統語的情報を用いるのか?—	サディグル エルドス 日本語とカザフ語のオノマトペ語彙の多義性について
16:15-16:45	磯野 将典，鈴木 孝明 幼児による三項動詞構文の理解と格助詞について	秋田 喜美，竹安 大 オノマトペの「特異性」再考—音韻と意味の接点—
16:55-17:25	隈上 麻衣，翟 勇，坂本 勉 日本語における空主語文の処理方略について—児童の言語習得の視点から—	三村 竜之 アルファベット複合語から見たデンマーク語複合語アクセントと意味制約
17:30-18:00	村岡 諭，坂本 勉 左側節境界の設定における否定呼応副詞の影響	

	G会場 (西1号館1階101教室) 司会：岸田 文隆 (前半)，永瀬 治郎 (後半)
13:00-13:30	崔 榮殊 「結果状態」を表す韓国語のテンス・アスペクト形式-ess-と-e iss-の使い分け
13:35-14:05	韓 京娥 「行く」「来る」と「가다 kata」「오다 ota」の選択要因
14:15-14:45	許 永新 飲食動詞構文の日中対照研究
14:50-15:20	中本 武志，李 美賢，郭 玉英 指示詞と視点—日中韓比較研究—
15:20-15:40	(休憩)
15:40-16:10	河須崎 英之 中国朝鮮語の2音節名詞のアクセント
16:15-16:45	宮瀬 誠 朝鮮語三陟方言の名詞アクセント体系
16:55-17:25	姜 英淑 韓国語統営市方言のアクセント体系
17:30-18:00	

【お願い】
研究発表会場となる西1号館，西2号館では，大会と並行して大学の授業等もおこなわれます。来場や会場移動の際は，授業の支障にならないようご協力をお願いいたします。

■会員企画のワークショップ 6月21日(土), 15:40~17:40

A会場 (西2号館 4階402教室)	ワークショップ1「言語の構造的多様性のなかでの品詞分類」 企画・司会 中山 俊秀
	今どきの品詞分類—議論の出発点として— 中山 俊秀 スライアモン・セイリッシュ語の名詞と動詞の分類について 渡辺 己 日本語から考える品詞の問題 加藤 重広 孤立的言語における品詞分類の難しさ—パラウク・ワ語を例に— 山田 敦士
	ワークショップ2「日本語における前提導入表現とその同定手法」 企画 片岡 喜代子 司会 戸次 大介
	日本語における前提概念の同定 戸次 大介 否定関連表現と前提 片岡 喜代子 証拠推量表現と前提 齊藤 学 言語処理から見た前提研究の可能性 川添 愛

■ポスター発表 6月22日(日), 11:20~13:00

H会場 (創立百周年記念 会館3階小講堂)	李 在鎬, 玉岡 賀津雄, 林 炫情 韓国語の話しことばと書きことばにおける音素, 音節, 音節結合の出現頻度
	時本 真吾 日本語における「島」の効果の実験的記述
	高田 智和, 鐘水 兼貴 「略字・俗字」の使用に関する意識調査
	水本 豪 幼児の単一項文の理解からみた格助詞理解と作動記憶容量のかかわり
	鈴木 幸平 流体の経路表現の意味拡張について
	Anna BUGAEVA Ainu causatives
	澤田 淳 日本語の移動動詞の意味変化と継続アスペクト
	藤井 聖子, 上垣 渉 支援動詞構文における事態性名詞と動詞との項共有と連結性 —『日本語コーパス』を用いた分析—

■「危機言語」ワークショップ 6月21日(土), 10:00~12:00 ※会員以外の方も聴講可。

従来の関係節研究を統語的・意味の側面から再検討するとともに、そこで洗い出された問題点を危機言語のデータとすり合わせ、関係節を統語と意味の側面から総合的かつ通言語的にとらえなおします。

西2号館 4階402教室	関係節の類型論：フィールドから見えてくる言語の多様性 Part 3	
	企画 日本言語学会「危機言語」小委員会 司会 呉人 恵	
	日本語関係節主要部の統語と意味	加藤 重広
	ユーマ語族における主要部内在型関係節	市橋 久美子
	ポー・カレン語の3種の関係節—「後置型」「前置型」「標識介在型」—	加藤 昌彦
	コリャーク語の分詞による関係節と格標示	呉人 恵

■公開講演 6月22日(日), 9:40~11:45 ※会員以外の方も聴講可。

創立百周年 記念会館 正堂	公開講演(1)「内省実験から見える文法」 上山 あゆみ (九州大学) なぜ「文の内省的な容認性判断」という主観的で揺らぎの多い現象が生成文法の理論構築のデータとなりうるのか? その位置づけを理論的・実証的な側面から論じます。
	公開講演(2)「コーパスから見える文法」 大名 力 (名古屋大学) 大規模コーパスの利用で見えてくる構文の拡張の実態を示し、言語研究におけるコーパスの有用性を示すとともに、限界や利用上の注意についても具体例を挙げて検討します。

■公開シンポジウム 6月22日(日), 13:30~16:30 ※会員以外の方も聴講可。

形態論と隣接分野のインターフェイスを明らかにし、形態論研究の幅広さと奥深さを展望します。取り扱う言語も、日本語、英語、オランダ語、イタリア語、ギリシア語など多岐にわたります。
※発表は英語でおこなわれますが、討論者が内容を日本語で要約します。

創立百周年 記念会館 正堂	Symposium: Morphology and Its Neighboring Areas (形態論と隣接分野) (協賛: 日本英語学会) Chair: Taro KAGEYAMA (司会: 影山太郎) Discussants: Yo MATSUMOTO, Yoko SUGIOKA, Hideki KISHIMOTO, Yoko YUMOTO (討論者: 松本曜, 杉岡洋子, 岸本秀樹, 由本陽子)
	Topic 1: Morphology and Grammar (トピック1: 形態論と文法) “Construction morphology” (構文形態論) Geert BOOIJ (University of Leiden) (ライデン大学 G. ボーイ)
	Topic 2: Morphology and Language Typology (トピック2: 形態論と言語類型) “Searching for universals in compounding” (複合語の普遍性を求めて) Sergio SCALISE (University of Bologna) (ボローニャ大学 S. スカリーゼ)
	Topic 3: Morphology and Language Variation (トピック3: 形態論と言語変異) “Dvandva [V V] compounds: A linguistic link between Greece and East/South-East Asia” (V-V型の並列複合語: ギリシアと東アジア/東南アジアとの言語的な繋がり) Angela RALLI (University of Patras) (パトラ大学 A. ラッリ)
Topic 4: Morphology and Semantics (トピック4: 形態論と意味論) “Semantic effects of left-hand elements on right-hand head structure” (右側主要部構造に対する左側要素の意味的影響) Taro KAGEYAMA (Kwansei Gakuin University) (関西学院大学 影山太郎)	

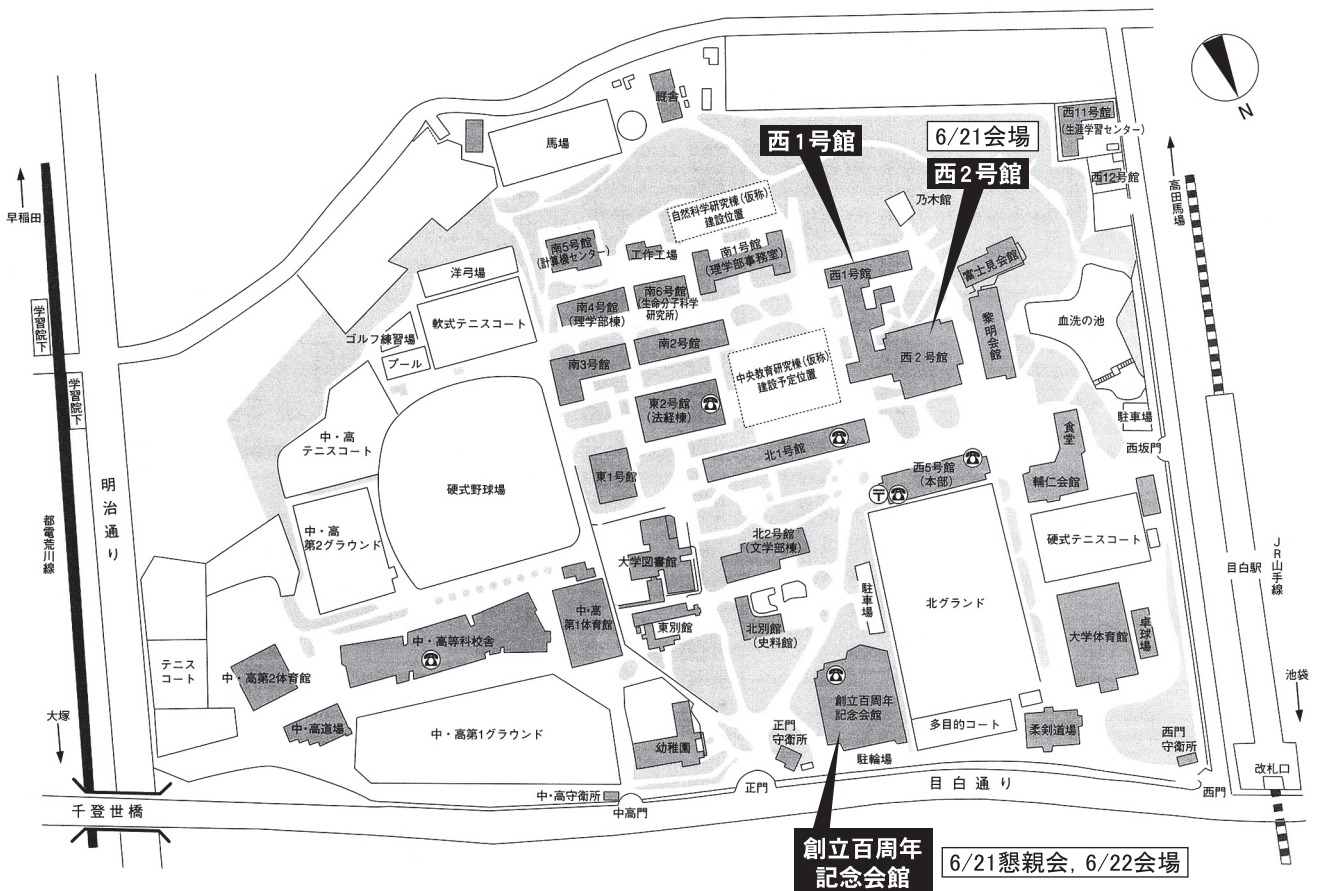
● 会場案内（「会場配置図」は次ページにあります）

JR 山手線「目白」駅下車。改札を出て右の「西門」から入る。

アクセスマップ：<http://www.gakushuin.ac.jp/univ/etc/access.html>

受付は、西2号館1階（6月21日）、創立百周年記念会館1階（6月22日）です。

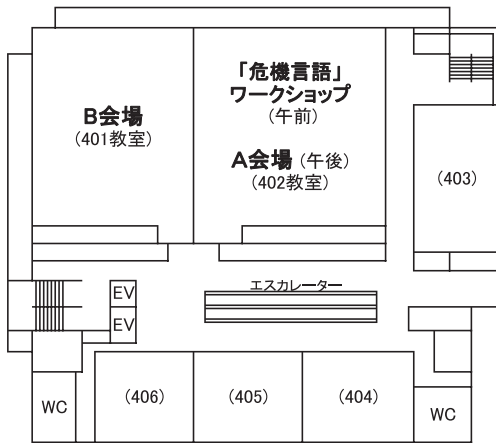
学習院目白校地案内図



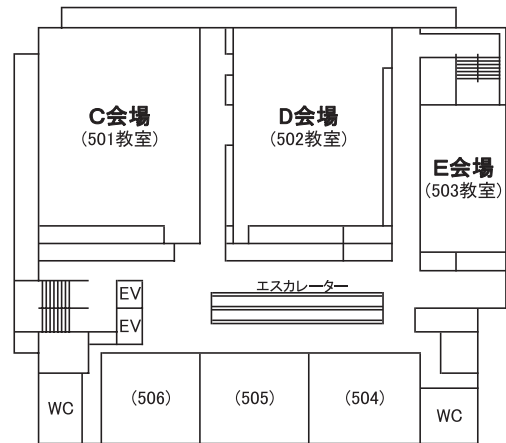
● 会場配置図

【西2号館 (6月21日会場)】 (受付: 1階, 西1号館への連絡通路: 1階)

4階

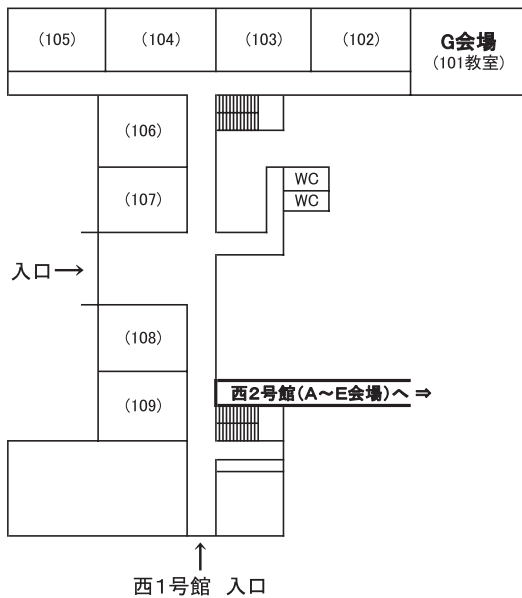


5階

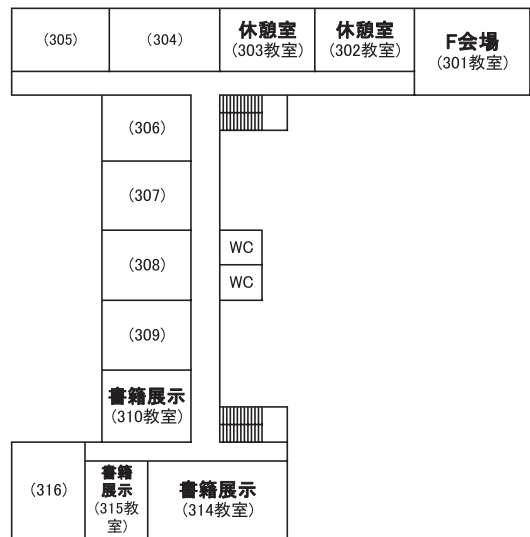


【西1号館 (6月21日会場)】 (西2号館への連絡通路: 1階)

1階

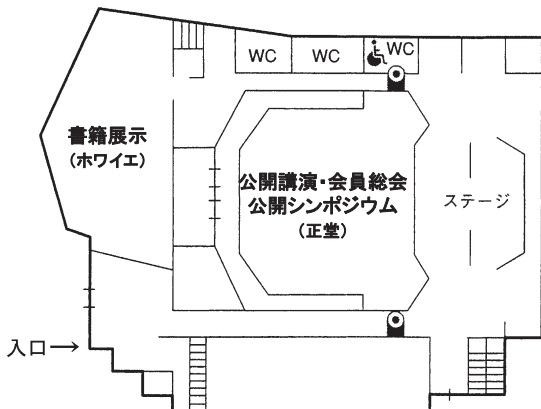


3階

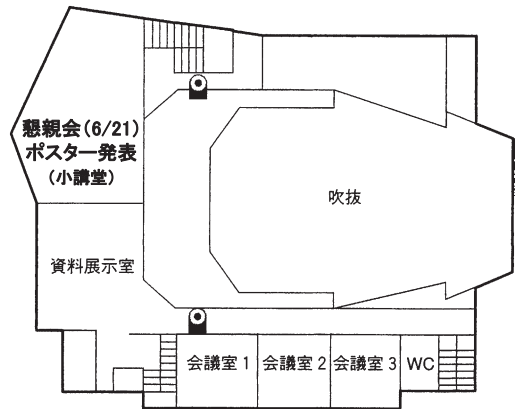


【創立百周年記念会館 (6月21日懇親会, 6月22日会場)】

1階



3階



お知らせ

◆大会予稿集の販売

- ・大会予稿集は、大会当日に受付にて販売いたします（1部 2,000円）。事前購入はできません。
- ・大会予稿集の郵送（大会終了後になります）をご希望の方は、「部数、送付先」を明記の上、学会事務局までお申し込みください（送料込みで1部 2,500円）。代金は送付時に同封される振込用紙にてご送金ください。

◆同封はがきによる申し込み

次のことがらを希望される方は、同封のはがきで **5月30日(金)まで**にお知らせください。

- ・ **第1日の懇親会への参加**（一般 5,000円、学生 3,000円）（人数把握のため事前申し込みにご協力ください。）
 - ・ **車椅子の利用**（事前の申し込みがあった場合、若干数を用意いたします。）
- ※お弁当の販売はおこないません。

◆出張依頼状

所属機関長宛の出張依頼状をご入用の方は、返送先を明記し切手を貼った返信用封筒を同封の上、**5月30日(金)までに**学会事務局までお申し込みください。

◆書籍展示コーナー

書籍展示のコーナーは、西1号館3階（6月21日）、創立百周年記念会館1階ホワイエ（6月22日）です。

◆資料展示コーナー

大会当日は、両日とも書籍展示コーナー付近に資料展示用の机を用意します。会員に紹介したい学会、研究会、講演会のパンフレット等を置くことができます。

◆大会予稿集、『言語研究』のバックナンバー

大会予稿集および『言語研究』のバックナンバー購入をご希望の方は、「号、購入部数、送付先」を明記の上、学会事務局までお申し込みください。代金は送付時に同封される振込用紙にてご送金ください。

- ・大会予稿集（111回、112回、116回、117回、121回、125回、132回大会の予稿集は品切れ）
111回大会（1995年秋）～132回大会（2006年春）（送料500円のみ）
133回大会（2006年秋）～135回大会（2007年秋）（1部1,000円＋送料500円）
- ・『言語研究』の在庫情報は学会ホームページをご覧ください。
<http://www.soc.nii.ac.jp/ljsj2/gk/j-backnumber.shtml>

次回大会予告（2008年秋季大会：第137回大会）

場所： 金沢大学（石川県金沢市）

日程： 11月29日(土) 口頭発表・ワークショップ

11月30日(日) 公開講演、ポスター発表、公開シンポジウム

大会までのスケジュール：

- ・発表応募締め切り **2008年8月20日(木)**（必着）（『言語研究』、学会ホームページ掲載の規定に従い、学会事務局までご応募ください。）
※2008年から締め切り日が早くなっておりますのでご注意ください。
- ・採否通知 9月上旬
- ・大会発表要旨（学会ホームページ、『言語研究』掲載）締め切り 10月1日(水)（予定）
- ・予稿集原稿締め切り 10月10日(金)（予定）

お問い合わせ・お申し込み先

日本言語学会事務局 〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入

Tel. (075)415-3661, Fax. (075)415-3662, E-mail: ljsj@nacos.com